

子供手帳モデルの検討事項（案）について

① 低出生体重児等に対応する記録欄等

近年、低出生体重児の増加が見られ、全ての妊産婦・保護者・乳幼児を対象とする母子健康手帳においても、そうした児に対応する視点が重要となっており、可能な配慮の工夫について、記録欄を中心に項目を検討すべきではないか。

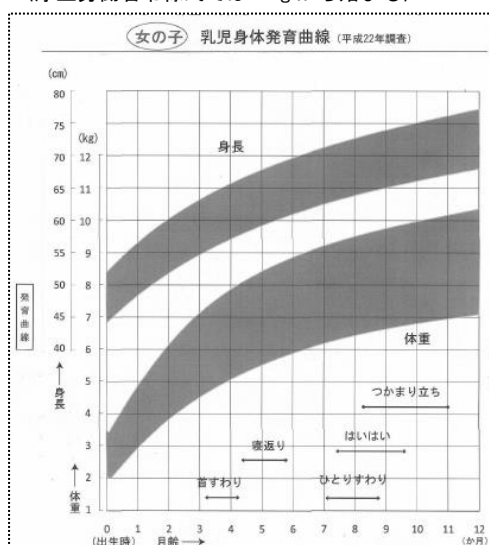
（調査結果より）

- ・ 都内在住の保護者及び団体等の会員の方に対し記録欄の改善の希望の有無とともにその理由を尋ね、改善を希望する理由として「記録欄がない・狭い」を挙げる割合が多く項目で最も高かった。（参考資料2 p11 参照）
- ・ 記録欄の改善に関する具体的な意見（上記設問に対し「その他」を理由として挙げた人の回答）として、「保護者の記録する成長・発達の記録」について「できていなければいけないような質問はやめてほしい」、「いつ頃何が出来ようになったというのを書き足すような形式」といった意見や、「発育曲線」について「小さく生まれた子の成長曲線ものせてほしい」といった意見があった。（参考資料2 p13 参照）
- ・ 区市町村に対する調査では、記録欄に追加したい項目として、「低出生体重児について」「発達・発育について」を5自治体が挙げていた。（参考資料2 p47 参照）

（検討の方向案）

- ・ 0kg から始まる発育曲線

（厚生労働省令様式では1kg から始まる）



- ・ 「はい・いいえ」ではなく、できた時期を書き込む成長の記録の例

首すわり 月 日
寝返り 月 日
・・・
つかまり立ち 月 日
・・・
・・・

② 学齢期にも対応する記録欄等

子育て支援や子供の健康管理の観点からは、就学前までだけでなく、学齢期にも対応する視点が重要であり、記録欄を中心に項目を検討すべきではないか。

(調査結果より)

- ・ 都内在住の保護者対し記録欄の改善の希望の有無を尋ね、「発育曲線」、「予防接種の記録」、「病気やアレルギー、薬の副作用等に関する記録」及び「医療機関や療育機関等の受診記録」について改善を希望すると回答した人の3割以上が、その理由として「学齢期以降も記録できるようにしたい」を挙げた。(参考資料2 p11 参照)
また、記録欄に「学齢期以降の記録欄」を追加してほしいとの意見もあった。(参考資料2 p15 参照)
- ・ 都内在住の保護者及び団体等の会員の方に対する母子健康手帳への意見・要望についての設問の回答では、記録欄に関して、都内在住の保護者から「20歳まで書き込めるとよい。18歳までの病歴や通院履歴などに使えたら便利だと思う」といった意見や、団体等の会員から「現在は記入が7歳までで終わるが、児童期(～18歳)まであればなお良いと思う」といった意見があった。(参考資料2 p33 参照)
- ・ 区市町村に対する調査では、記録欄に追加したい項目として、「学齢期について」を6自治体が挙げており、記録欄に関し追加の希望があると回答した自治体の中では最も多かった。(参考資料2 p47 参照)

(検討の方向案)

- ・ 学齢期にも対応する記録の例

小学生の記録
小学校就学以降のお子さんの体調
の変化や身体測定の結果を記録しま
しょう。
1年生・・・
2年生・・・
3年生・・・

③ 妊娠や育児への不安の解消に資する情報

近年、核家族化の進行や地域のつながりの希薄化により、身近に相談できる相手がいないなど、育児の孤立化が進んでおり、子供を持つことや子育てに不安を抱える家庭の増加や産後うつ等の問題も指摘されており、特に母親に対する支援の観点から、子育て情報として改善すべき内容や新たに盛り込むべき内容について検討すべきではないか。

(調査結果より)

- ・ 都内在住の保護者及び団体等の会員の方に対し情報欄の改善の希望の有無とともにその理由を尋ね、改善を希望すると回答した理由として「情報が少ない」を挙げた割合が「その他」を除く全ての項目で最も高かった。(参考資料2 p23 参照)
- ・ 都内在住の保護者及び団体等の会員の方に対し情報欄に追加してほしい内容を尋ね、「その他」を選択した人の具体的な意見として「産後うつ・産後ケア・家事援助サービスの案内」や「出産後の母の戸惑いやストレスをやさしく受け入れてくれるような言葉がほしい」といった回答があった。(参考資料2 p 28 参照)
- ・ 都内在住の保護者及び団体等の会員の方に対する母子健康手帳への意見・要望についての設問の回答の中で、都内在住の保護者から「精神的に心の支えになるような情報や言葉があるといい」といった意見や、団体等の会員から「障がいのある子供の場合、通常の発達と異なるため母子手帳が嫌になる、不安をあおるような存在であることも事実ですが、それでも相談機関に早くつながるような記載があれば不安をカバーできると思います。」といった意見があった。(参考資料2 p35 参照)
- ・ 区市町村に対する調査では、情報欄に追加したい内容として「妊娠中、産後のメンタルヘルスについて」を挙げる区市町村があった。(参考資料2 p47 参照)

(検討の方向案)

- ・ 任意様式の記載内容をもとに検討

◎ゆったりとした気持ちで

赤ちゃんの成長や発達には個人差が大きいです。ほかの赤ちゃんとの違いをあまり気にしすぎないようにしましょう。毎日の育児は、身体的にも精神的にも負担がかかります。お母さん、お父さんにとっても、心と体の健康が一番大切です。休養をできるだけとって、何より健康である心がけましょう。

お母さん・お父さんの悩みや子育てに関する相談

赤ちゃんが産まれてから、お母さん、お父さんは大変忙しくなります。子育て中はストレスがたまったりやすいです。そのため、普段は元気なお母さん、お父さんであっても、イライラする、眠れなくなる、急にふさぎ込むなど心身の調子がとれなくなることもあります。

◎日頃こんなことを感じますか？振り返ってみましょう

不安になる、気分が落ち込む、不眠やイライラがある、なぜか疲れる、育児が楽しくない、子どもの遊ばせ方がわからない、子育ての話し相手や手伝ってくれる人がいない など

◎子どものことで不安に思っていることはありませんか

夜泣きがひどい、寝つきが悪い、母乳を飲んでくれない、離乳食をいやがる など
保育所、幼稚園の先生や友だちになじめない、言葉がはっきりしない、興味を示すものが限られている、集団の中で落ち着いていない、聞かれたことに答えない、同じ言葉を繰り返す など

気になることや、悩みがあるときは、まずは、家族と話し合ってみましょう。そして、家族以外にも子育ての助けになる人を探してみましょう。

④ 父親の育児参画の促進に資する情報

女性の就業継続率が高まるなど女性活躍が進む状況において、父親の育児参画がますます重要となっており、父親の育児参画に資するものとして、子育て情報として改善すべき内容や新たに盛り込むべき内容について検討すべきではないか。

(調査結果より)

- ・ 都内在住の保護者及び団体等の会員の方に対し情報欄の改善の希望の有無とともにその理由を尋ね、改善を希望すると回答した理由として「情報が少ない」を挙げた割合が「その他」を除く全ての項目で最も高かった。(参考資料2 p23 参照)
- ・ 母子健康手帳への意見・要望についての回答の中では、都内在住の保護者から「子育て手帳などに名前を変え、父親にも育児に参加するように促すなどもっと活用してほしい」といった意見や、団体等の会員から「妊娠中の過ごし方には夫の協力も必要なのに「母子手帳」という名称だと目を通してもらえない人も多い。「赤ちゃんを迎える家族の手帳」などという名称にし、男性の育児参加も促してほしい」といった意見があった。(参考資料2 p35 参照)
- ・ 記録欄に関して、「父親となる人のコメント欄、父親向けの欄」を追加してほしいとの意見があった。(参考資料2 p15 参照)
- ・ 区市町村に対する調査では、情報欄に追加したい内容の具体的意見として「父親、その他の家族向け情報欄(父親の役割等)」や「育児参加の周知、勧奨」を挙げる区市町村があった。(参考資料2 p48 参照)
- ・ 母子健康手帳交付時に父親向けのハンドブック等を配布する区市町村もあった。

(検討の方向案)

- ・ 任意様式の記載内容をもとに検討

◎妊娠中の夫の役割

妊婦の心身の安定には、夫や家族など周囲の理解や協力が必要です。妻をいたわり、ねぎらい、家事を積極的に行きましょう。妻の妊娠期間の約10か月は、夫にとっても「父親」として育ていく大切な準備期間です。この時期に、ふたりにとって子どもとはどんな存在か、親になるとはどういうことなのかなど、じっくり話し合ってみましょう。また、お産の時や産後の育児で夫がどのような役割を持つのか、妊娠中からよく話し合い、準備しておきましょう。

◎お父さんの役割

お父さんもおむつを替えたり、お風呂に入れたり、あやしたりなど、積極的に子育てに参加しましょう。お母さんを独りぼっちにせず、精神的に支え、いたわることもお父さんの大切な役割です。お父さんとお母さんがよく話し、二人で育てていくという意識を持つことが大切です。

◎お父さんも育児を

お父さんも赤ちゃんとスキンシップをしっかりとち、おむつを替えたり、お風呂に入れたり、できることから始めましょう。お母さんがお父さんに赤ちゃんを任せて外出できるようになると、お母さんも助かります。

⑤ 母子健康手帳を補完するツール

母子健康手帳と合わせて提供することにより、母子保健や子育て支援の観点から効果が期待できるツールについて、検討すべきではないか。

(調査結果より)

- ・ 都内在住の保護者に対し母子健康手帳以外に活用している手帳類やアプリの有無を尋ねた設問で、「アプリを活用している」と回答した割合は 23.4%、「手帳や紙媒体の資料を活用している」と回答した割合は 24.7%だった。(参考資料2 p29 参照)
- ・ 団体等の会員に対する同様の設問で、「アプリを活用している」と回答した割合は 15.8%、「手帳や紙媒体の資料を活用している」と回答した割合は 31.7%だった。(参考資料2 p29 参照)
- ・ 上記の設問に対し「アプリを活用している」、「手帳や紙媒体の資料を活用している」又は「その他」と回答した人を対象にその目的を尋ねた設問で、都内在住の保護者では「成長・発達の記録のため」が 64.0%で最も多く、次いで「健診や予防接種の記録、スケジュール管理のため」が 44.7%であった。(参考資料2 p31 参照)
- ・ 同様の設問で、団体等の会員では「主な病気やアレルギー、薬に関する情報の整理のため」が 58.9%で最も多く、次いで「かかりつけ医や受診状況に関する情報の整理のため」が 41.1%であった。(参考資料2 p31 参照)
- ・ 母子健康手帳への意見・要望についての回答の中では都内在住の保護者及び団体等の会員から、電子化・アプリ化を望む回答とアプリではなく紙媒体の方がよいとの回答があった。(参考資料2 p32 参照)
- ・ 区市町村においては、母子健康手帳を補完する目的で自治体独自の手帳類やアプリを提供している。(参考資料2 p45 参照)

(検討の方向案)

- ・ 子供手帳モデルの検討事項の内容を踏まえ、区市町村における手帳類やアプリの活用状況も参考に、母子保健や子育て支援の観点から効果が期待できるツールの在り方について検討

⑥ その他の検討事項

母子健康手帳の活用状況等に関する調査において、改善を希望すると回答した方が挙げた項目のうち、他と比べると割合の高かった以下の項目について検討してはどうか。

(調査結果より)

<予防接種の記録>

- ・ 都内在住の保護者及び団体等の会員の方に対し記録欄の改善の希望の有無を尋ねる設問に対する回答で、「その他」を除く具体的な項目を回答した中では、都内在住の保護者及び団体の会員の両方とも「予防接種の記録」と回答した割合が最も多く、都内在住の保護者では 10.1%、団体等の会員では 46.7%であった。(参考資料 2 p 10 参照)
- ・ 上記の回答をした人を対象にその理由を尋ねた設問に対する回答では、都内在住の保護者及び団体等の会員の両方とも、「記録欄がない・狭いと」回答した割合が最も多かった。(参考資料 2 p11 参照)

<各種社会保障制度やサービスに関する情報>

- ・ 情報欄に関し改善の希望の有無を尋ねる設問に対する回答で、「その他」を除く具体的な項目を回答した中で割合の最も多かったものは、都内在住の保護者では「各種社会保障制度やサービスに関する情報」で 10.3%だった。(参考資料 2 p22 参照)

<医療機関（連絡先）に関する情報>

- ・ 団体等の会員に対する同様の設問で、「その他」を除く具体的な項目を回答した中で割合の最も多かったものは「医療機関（連絡先）に関する情報」で 35.0%であった。(参考資料 2 p22 参照)

(検討の方向案)

- ・ 上記の項目等について意見交換